



ルカ福音書23:50-24:

ルカ 23:50-24:

<p>24:13-24/25-32 信じられずい 目が開く (X)</p> <p>24:33-43/44-53 信じられずい 五旬節 (X)</p> <p>使徒1:2-11</p> <p>預言を告げる + 御霊を授ける 新しく生まれる。</p>	<p>23:50-56 ヨセフ 墓</p> <p>24:1-12 マリヤ (X) 墓</p> <p>(X) 30日に再びかえり 9:22, 18:31-34</p>
--	--

2017.4.1

御霊に与えられる よみがえり

<p>ルカ1:-2: ヨセフ 布にくるむ 2:7 正しいザカリヤ、シメオン シメオン、アンナ 2:25 御使いが語る。ザカリヤ 1:54 マリヤ 思い出す 1:54 ザカリヤ 思い出す 1:73 ザカリヤが信じられずい あし、目が開く。 1:64 ザカリヤが御使いが 立ち、212 隠れる 1:12 ヨハネは喜びと語る 1:14 民の心を喜び 2:10 羊飼いたちが報告。</p>	<p>ルカ 23:-24: ヨセフ 布にくるむ。 23:53 正しいヨセフ 23:50 神の国を待ち望む 23:51 御使いが語る 24:1 思い出すヨハネ 2 弟の兄弟。信じられずい 盲目、目が開く 24:31 弟子たちが御使いが 立ち、212 隠れる 24:36-37 弟子たちが喜びの喜劇。 24:41, 32 弟の兄弟が報告</p>
--	--

ルカ福音書最後の段落、23章の50節から24章。大きく4つに分かれていると思います。ヨセフが埋葬するところは前の段落かなと思っていましたが、ここの段落の始めで良いのではないかと思います。

最初のルカ福音書の1章と2章、ここと繋がっているところが山ほどあります。最初もヨセフとマリヤが出てきました。ここもヨセフとマリヤというところから始まっています。それでエマオの村に行く2人の弟子は信じられない。そして目が開く。それを聞いて11人の弟子も信じられないということでしたけれども、その後ペンテコステの日に御霊が与えられますよという預言をするところで終わります。

(23:50-56、24:1-12、24:13-24/25-32、24:33-43/44-53)この4つですね。「必ず成就すると言ったじゃないですか」ということが、「必ず」「必ず」と3度も言われているところです。預言の言葉がたくさん出てきましたね。1、2章も。御霊も出てきました。ここも預言を悟る、預言されていたことを悟りなさい、その言葉を信じなさい、そうすると御霊が与えられますということが、この「新しく生まれる」ということだということが分かるのだと思います。

1、2章と比較してみると、ヨセフが布にくるむ、ヨセフが布にくるむ。正しいザカリヤとシメオン、正しいヨセフ。エルサレムの贖いを待ち望んでるシメオン、アンナ。神の国を待ち望むヨセフ。御使いも出てきました。思い出します、思い出して下さって

覚えてくださった、思い出さない、思い出した、覚えているということ。ザカリヤは信じないのでおしになったけれども、その後で口が開きました。2人の弟子も信じないので盲目にされましたけれども、目が開きました。喜ぶこと。隣に立っていて恐れていること。たくさんの比較ができることがあると思います。この最初のクリスマスのところで、肉をもって生まれるという時に、御霊が与えられて、御霊によって生まれたのですよということがあらわされていましたが、それはここの新しいよみがえりの命、よみがえって生まれるいうところがクライマックスのわけですね。ですから、御霊によって生まれる、よみがえる。両方とも預言されていたことですが、この新しく生まれるということが、ルカ福音書のクライマックスのところで言われて、新しい命ということが、預言を悟る。そして御霊を受ける。これが新しい命ですよということを表していると思います。

この最後の段落44節から53節。これは使徒行伝1章の2節から11節までのところとほとんど同じことを言っていますから、この次に御霊が与えられて新しく生まれるということが、イエスの弟子たち、イエスを信じる者たちに与えられていくというのが、使徒の働きです。

最初はヨハネとイエス、次はイエスと弟子たちという次の段階に入っていくところを表しているところで、このルカ福音書が終わっているというものだと思います。